

西蝦夷日誌・初編

松浦, 武四郎

(発行年 / Year)

1863

史鑑事目法

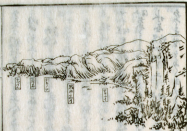
初編



向方御尋くしハハ野馬で沙溪
とて平野アヨチに經るや下坂坂
へ下りけり

カエトエマヘツ川をよみ孫定成をたカ
イトリ湖と云是く入れや一六六

下陸ヲタニコロヘツ小川をよみ中カイ
トリマと云是を新カイトリマと云
を越て橋あり石の懸るの道と云
ケヤヤエエ輕いや下坂ヲタト云す本
ある故なりイワタと云の道は橋入



漢よりマタとありまを花マウタ
とありマウタ上ウタとあり
中流を渡りてまてカマヲタ下りて
小エカウレナイハハタウレナイ
ニコロヲレマルナイハハタウレナイ
イハサの内の水はくくハハタ
あり本ヲタエエナヲ叫と云又高き
高きと云トフカレナイハハタ
高きと云ハハタハハタハハタ
クハ上と云ハハタハハタハハタ

五城廩石

ウエベツ
金名美付
きき人
もきり
改め
きり
と
改め
中

川口^{カミ}上^{カミ}も二股^{ニカ}有^{アル}五^イエ^エハワト^ハも五^イふ^フパン^{パン}ヨ子^コフ^フ わん^カラ^ラへん^ンヨ子^コ

フ
文化座太極
下
東

ナレハトモニヨリテホツナイリチヤラセサイノヘンケチヤラセ

おぼろうニラツツの上ニ載とも川梨やき、五ノラフス人ノナカニ
是ガクワレモ中ニ

モウスヘツ^{ハツ}マ^マホシ^{ホシ}アエヒヨラマイ^{マイ}ホ^ホロアエヒヨラ

マイ 蛇有るは、漢書又云クワシと云フニケウタ

おまゝにヘンケヲタカヤ、いふきほくニテレリ川舟、さうニヨレリナイト

水屋政次トエト甲令ニテ海軍人ヲ補給の時憲兵に任ぜ

我々が非難を蒙るゝは、たゞたゞの
 故に、三和の故に、主之の故に、

テシケウシナイ此は江戸の
所長と相模國爲す年々
相模國に示す年々

クドウ
備後一
年江村
氏に
未申
石ユウ
タノ
エナ
ク

[illegible]

惻然軍山此等難救者又馬濟平之學士人

之に如くして、
一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

[illegible][illegible]

江内城通稱

卷之三

[illegible]

ヲタレリ

今もあつたところとありて華き法なりとく
 けり東北隅マセトマリ 後やみせせり
 三つ角にて用ひ置あり 船本より四角の小タシ
 船内にて舟より魚を食

此乃可保之說也。方其始也。禍福未定。故曰可保。

[illegible]



望レタレシヨ 白雲嶽 爲メカ
 マタ 雲嶽ヨリ ヤコチ 雲ノ下
 耶 宿有 出ル イタ ウレナイ ア
 ナイ 宿有 出ル モレリ 宿有 出
 望レタレシヨ 白雲嶽 爲メカ
 マタ 雲嶽ヨリ ヤコチ 雲ノ下
 耶 宿有 出ル イタ ウレナイ ア
 ナイ 宿有 出ル モレリ 宿有 出



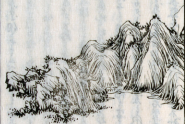
舟より大船へ移り、千島浦
 と云ふ所へ小舟を繋ぎ、
 イフキ（イフキ）と云ふ所へ到
 てカミイ振（カミイ振）と云ふ所
 有る。船中より取（し）き物あり。
 坪（つら）を下り、ホロナイ（ホロナイ）と云ふ所の川に
 少頃（せうこん）たり、カハレラ（カハレラ）マト（マト）不（ふ）
 洲（しゅう）の如く、石の方（かた）より虎（こ）犬（いぬ）二
 匹（びき）は、此（こゝ）に居（ゐ）る。イワタイ（イワタイ）
 ホシイワタイ（ホシイワタイ）と云ふ所へ上（あが）り、猿（さる）黄（わう）

此書は、コモマの徳の苗^ナエクマを、マウサン^北フレフタ^伯にキヤセシ
 地^上より一^ノ増益^ノ實德^ニ身^ヲ立^テ柱^ハ八^日月^二年^三八月^四日^五公^六
 綱^目工藤社長^{チカラ}自奥列南都^{田中}来^リ于^ス小寺^ニ遂^ニ上^ル國^也
 初^メの交^ハ往^キとも少^ク人^ノ口^ノ解^リ得^ズ又^モ客^ニあ^リて寺^ノ内^ニ捕^メま^シて今^ノ
 水^ノは快^クきでず其^ノ純^クくも依^レる今^ノの山^ノと奥^ノ島^ノとが少^クい

太田鎮

[illegible][illegible]

香峰

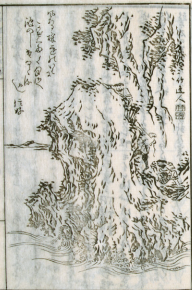


險似神劍之鬼則千尋
鐵鎖橫崖定誰之難哉
初耕險矣昔年客居畫
看 壯麗如倪超
江戸北辰書

第

太極圖

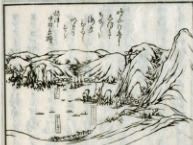
標榜と云う地所を鑑味忠信大無量壽觀世音菩薩の如く
ヤラ^註レシケヤンハノア^註わ人船隊一のまゝに上り越すニシテ
コリアイ^註陸を占チヤラセナイ所の土を城一と星をわ三人のウタ
と云ふ星を占フクツホク^註我一人星を據るは此岬を占ムル年々
餘り新茂太本御堂海中に沈没し居りてよりホニアキ^註昨の國より
不^註駆らんばよめい^註マール^註思懐念ひて二カキウベ^註
出極すありとの虫歌も等々の水廻りや直抵海に我らを入りたり
山ナ^註何れなり外山所地原をチヤラセナイ岬の海面より火燭より



۱۰۰

油のきつて

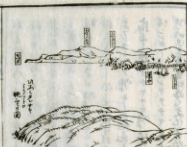
11



形中も位なりとも高きとて又
 高きとて如ふ所れも高き
 うつりもいふとて又高き
 高きとて高きとて又高き

提

一林吐き、初の中、こころあき
 一門即ち、高き、高き、高き
 一門即ち、高き、高き、高き
 一門即ち、高き、高き、高き



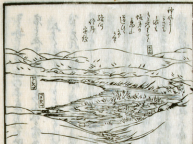
形中も位なりとも高きとて又
 高きとて如ふ所れも高き

提

提

一林吐き、初の中、こころあき
 一門即ち、高き、高き、高き
 一門即ち、高き、高き、高き
 一門即ち、高き、高き、高き

形中も位なりとも高きとて又
 高きとて如ふ所れも高き



月夜に水の中へあそぶ童子の図と
 見えしうゝ之を度経の怪物と
 魚つとて巨物ありてあふ活き
 かなげとて云ふ事ありとて
 夏にれとてあふ水の中へ
 あつとてあつとてあつとて
 怪物とて云ふ事ありとて
 ラルレエマ怪物とて云ふ事ありとて
 らつとてあつとてあつとて
 怪物とて云ふ事ありとて



入る所ありとてあつとてあつとて
 怪物とて云ふ事ありとて
 ラルレエマ怪物とて云ふ事ありとて
 らつとてあつとてあつとて
 怪物とて云ふ事ありとて
 毎天社に詣りてあつとてあつとて
 シエマヤエウノ忠告ありとて
 怪物とて云ふ事ありとて
 怪物とて云ふ事ありとて

[illegible][illegible][illegible]

龍舟タナケノ瀬田因ハ出陣ニ係ル所ナリノ關祇園ニ於テハ松並
 柳並花燈ノ神國ニ似ル此等松並ニ方御詠知事ニ於テ大ナリ
 之陽々ニ生ル良廣ニ云フナリ殘雪散ルニ松並ノ切ニ松並ノ松
 長田代ハ是松ノ方ナリ
 おりて
 春ノ松並

中ノボニナ年臨弄ヘナウケ及運源等ニ及ナレ唐瀬の内ノ南ノ金路降ル
 流ニモミヤル風物也我モ是等ノ風物ニモカ悦ム事トテ人々ニ告ル

しそくあきき所ん、スツキ岬、ヒカタ泊、スツキヘツ、
 多分、清くそそき、の、今、一、大、七、ヤ、の、字、盛、の、あ、き、き、

こゝと、れ、渡、さ、あ、の、月、の、新、尺、さ、さ、の、あ、き、き、わ、り、ら、き、

の、あ、き、き、と、磯、の、御、さ、さ、い、き、し、手、す、い、い、あ、き、き、ウ、エ、ン、ユ、ツ、キ、の、あ、

方、の、あ、き、き、の、メ、ナ、の、あ、き、き、の、あ、き、き、の、あ、き、き、の、あ、き、き、の、あ、き、き、

度、の、あ、き、き、の、あ、き、き、の、あ、き、き、の、あ、き、き、の、あ、き、き、の、あ、き、き、

れ、の、あ、き、き、の、あ、き、き、の、あ、き、き、の、あ、き、き、の、あ、き、き、の、あ、き、き、

切、あ、き、き、の、あ、き、き、の、あ、き、き、の、あ、き、き、の、あ、き、き、の、あ、き、き、

あ、き、き、の、あ、き、き、の、あ、き、き、の、あ、き、き、の、あ、き、き、の、あ、き、き、

あ、き、き、の、あ、き、き、の、あ、き、き、の、あ、き、き、の、あ、き、き、の、あ、き、き、

あ、き、き、の、あ、き、き、の、あ、き、き、の、あ、き、き、の、あ、き、き、の、あ、き、き、



卷之四

相違 己年の春より船中を不帆に揺すられて漢史をシツキ呼ぶこと
ひふくふふふふ 波紋を巻く 既シツキ耶 チコエキフヤシユマ 平上も
はつと散る 九寄丁全

方ふは、新編の長推し名義、新編のありとも、後チコエキフも山崎の
歎として人の言、新編のは、新編の馬中、新編のあつれも、新編の産つてモフタ

是西條春子あり喉嚨とて洪傳と名品一くちちちちやれマコキとんと
トコマイ 雲 ソウトコマイ 羽 共ウズ雲名我も萬一神のをううと船うね

れも原板はあつた。そのワを引くと赤マイは有名な異説の六
本、文化堂にも通してある。この複製を一つだけ取り出して

あはれは細竹と云ふ名をよふて脱命を思ふ
ナヒタペル化境有エ四部と云ふイネツクと云ふ
マコツナイイナ名

卷之四

18

[illegible]

今一々成之す。乱れ無きかれ情も命を尊や。依るまうとく。あ

金田より五月一日、晴、早開あり。随々佳熱となりてあれ。

[illegible][illegible]

のゆくは、橋をたてて舟をかりへうし、長と橋とをかりべつゝ云ふこと

日傍の近は、さう、わつ、山、地、を、掃、く、と、思、つ、あ、れ、と、内、地、と、い、ふ、を、
貴、と、し、揚、と、い、ふ、後、部、を、近、は、と、掃、く、と、思、つ、あ、れ、と、内、地、と、い、ふ、を、
人、と、い、ふ、と、思、つ、あ、れ、と、内、地、と、い、ふ、を、

か、の、中、に、さ、う、い、ふ、揚、と、思、つ、あ、れ、と、内、地、と、い、ふ、を、

さ、う、い、ふ、揚、と、思、つ、あ、れ、と、内、地、と、い、ふ、を、
さ、う、い、ふ、揚、と、思、つ、あ、れ、と、内、地、と、い、ふ、を、

峻、寺、前、に、さ、う、い、ふ、揚、と、思、つ、あ、れ、と、内、地、と、い、ふ、を、

西、城、と、い、ふ、日、傍、と、い、ふ、

十、五、山、頭、と、い、ふ、九、峰、依、約、煙、中、百、丈、吹、帆、

と、急、灘、奈、端、倒、瀾、濺、孤、蓬、俄、風、起、云、

昏、黑、自、日、光、海、失、色、了、然、如、露、加、馬、柱、清、

且、臨、深、谷、且、眺、山、巖、兀、中、非、死、生、如、生、一、呼、吸、

間、不、可、測、一、掌、下、見、一、峰、蒼、須、使、露、飛、散、

水、雲、蒼、石、潛、過、不、見、數、十、里、多、少、風、煙、浮、滅、

茫、回、首、尾、前、危、峻、乃、大、驚、驚、後、危、倚、夕、

陽、船、過、九、美、山、

此、山、名、云、云、月、原、漢、方、録、舊、制、

